

信友

信友会事務局

東京都新宿区高田馬場
3丁目45-4
電話 03-5330-1192 (代)

主な記事

- 2面...久里浜創立六十周年を迎えて
- 3面...通信団の今
- 3面...ハイサイ!第十五通信隊です。
- 4面...西方通信群協力会の紹介
- 5面...陸上自衛隊通信電子の現況
- 6面...ゴルフ分科会から

四十六周年総会・懇親会盛大に挙行政

本年は現役含め三百人目標!二月二十六日に実施

第四十六回信友会総会・合同歓送迎会(懇親会)は、平成二十二年二月二十日(土)、第一ホテル新橋において盛大に行われました。十二時二十分から行われた総会では、平成二十一年度事業報告及び平成二十二年事業計画等が審議承認されました。

その後、十二時から、信友会・現役合同の歓送迎会(懇親会)が挙行政されました。参加者は、信友会員百三十名、現役通信科隊員の方々百七十一名の計三百一名で



合同歓送迎会「乾杯」

合同歓送迎会「会長挨拶」



総会風景

合同歓送迎会「80歳以上の皆様(簾席)」



中地区信友会員の皆様と懇親

中地区 懇親会実施

信友会の地方懇親会は、毎年、方面通信群の記念行事祝賀会食の場をお借りして行っています。

平成二十二年は、中部方面通信群記念行事に併せて三月七日(日)に宝塚ホテルにおいて開催されました。中

地区の信友会員の皆様と信友会副会長以下信友会役員が参加し、和気あいあいとしたムードの中、旧交を温め、昔話に花が咲いておりました。

本年の地方懇親会は、西部方面通信群記念行事に併せて行います。多数の会員の皆様のご来場をお願いします。

「粗にして野だが卑ではない」

会長 福井孝三



新年明けましておめでとうございます。旧年中に賜りました信友会活動に對する皆様の暖かいご支援とご協力に、心から感謝申し上げます。

戦後の日本発展と共に歩み、一九八〇年代には世界一の航空会社と言われた日本航空が、二〇〇九年一月経営破綻に陥り、稲森和夫会長のもとで再建に取り組んでいます。経営破綻の原因は、半官半民の会社から完全民営の会社になっても親方日の丸の経営体質から抜け切れなかったこと、労働組合が強い切った改革が出来なかったこと、政治家や地方からの要望による政治路線とも言うべき赤字路線が拡大したことと言われています。

私はこの報道を見て、過去にも同じ様なことがあったことを思い出しました。それは、一九六〇年代、四十六万人を擁していた国鉄です。国鉄は、親方日の丸の非効率経営、国労と勤労という二つの組合による日常茶飯事のストライキ、津々浦々に延びた赤字ローカル線の維持等により、どうにもならない状況に陥っていました。

時の総理大臣池田勇人氏は「国鉄の効率を上げ、活力を吹き込む改革が必要である。そのためには国鉄総裁に民間人を入れたら」と考え、経団連会長石坂泰三氏に依頼して松下幸之助氏をはじめ財界人に声を掛けました。困った石坂氏は、最後に昔からの友人である石田禮助氏に声を掛けました。ところが、よもや引き受けることはないだろうと思っていた石田氏が二つ返事で引き受けてくれました。むしろ心待ちにしていた感さあえあつたと言われています。この時、石田禮助氏は三井物産代表取締役を最後に三十四年間の勤務を終え、神奈川県府津市で細仕事しながら隠遁生活を送っていました。石田氏は三井物産を今日の姿にした大成功者でした。こうして、一九六三年民間人初の第五代国鉄総裁が誕生しました。総裁は、国会の運輸委員会場で就任挨拶をするわけですが、その初登壇の際の演説が振るっていました。

「諸君、私は嘘は絶対つきません、知らぬことは知らぬと言いつつ、丁寧な言葉を使おうと思つても、生まれてつき出来ない。無理に使うとモンキーが棒を着たやうなおかしなことになる。無礼なことがあれば、よろしく願

47周年総会・懇親会

- 一日時 記
平成二十三年二月二十六日(土)
十一時一十分より
- (一) 総会 十一時一十分より 十一時五十分
 - (二) 懇親会 十二時一十分より 十二時四十分
- 二場所 第一ホテル新橋(前年と同じ)
新橋から徒歩二分
(JR・銀座線・浅草線)
電話 〇三三三三〇一四四一
住所 東京都港区新橋二二一六
三 会費 九、〇〇〇円(当日受付にて頂きます)
【お願い】
出欠については同封のがきでご返信ください。

四十七周年総会・懇親会(お知らせ)

信友会四十七周年記念の総会及び懇親会を左記のとおり実施します。

年一度の懇親会の場です。是非ともご出席いただき、同期・先輩等会員相互はもちろん、若ししい現役とも懇親の実をあげていただきますようお願い致します。

今回は、総会の開始時間を早め、新たな企画として陸軍通信電子課長の講話をいただくよう計画しております。時間をお聞えないようにはお願い致します。

いた。国鉄が今日のような状態になったのは、諸君達にも責任がある」と挨拶しました。明治二十三年国会開設以来、一民間人が国会の場で議員を前にして、「諸君」と言ったのは後にも先にも石田禮助氏だけだと言われている。また石田総裁は「公職は奉仕すべきもの、従って報酬はいらない」と宣言し、一ヶ月の報酬はウイスキー一本でした。石田総裁が言いたかったのは「細かいことにはこだわらず、口下手で少々野生的な面があるが、早いことや卑怯なことをして、人様から後ろ指を指されるような人間ではない」と言いたかったのだでしょう。いずれにしても議員達は「何だ、この爺さん」とびっくりしました。この時、石田総裁七十八歳、それから六年間いろいろ改革を成し遂げました。しかし、国鉄が民営化したのは、石田総裁が退官して十八年後の事でした。

一昨年、民主党政権が誕生しました。自民党であれ、民主党であれ最近の国会議員の中に「粗でも野でもないが、卑である」という人間が如何に多いことか、石田総裁の爪の垢でも煎じて飲め」と言いたいのには私だけでしょうか。国会の場で石田禮助氏に「諸君、日本の政治、経済、外交、防衛を今日の様な状態にしたのは諸君達に責任がある」と言ってもらいたいのです。私などは石田総裁の様な豪胆さは持っておりません、チマチマとした人間ですが、せめて「粗でも野でもないが、卑ではない」という生き方をしたいものだと思つ次第です。

久里浜駐屯地創立六十周年を迎える!

久里浜駐屯地創立六十周年を迎えて

通信学校長 陸将補 時津 憲彦



久里浜駐屯地所在の通信科部隊等は、通信学校中央野外通信群、通信教育直接支援中隊、基通久里浜派遣隊です。この六十年間で通信標定隊、第一〇六通信運用大隊等がそれぞれの場所に移駐する大きな改編はあり、後方支援体制の変更により指揮関係が変わることはありましたが、久里浜駐屯地が通信科のメッカであるとの地位は変わりません。御稜威橋を渡ると何故かホッとします。

駐屯地の周辺はというと、周りに緑が少なくなりまして、特に北側は、以前は防大までの丘はほとんど緑でしたが、宅地造成によりレーダ山、東山を除いては、緑はなくなっていました。その宅地に多くの自衛隊員が自宅を持つことができ、なかなか入れなかった官舎にも空きが出来るようになったので、あなたが悪いとは言えないのですが、緑が少なくなることは寂しいことです。

陸上自衛隊通信の現状についてですが、六十年という月日は、通信技術を加速度的に発展ならしめ、私が知っている後半三十年だけでも、野外通信の伝送技術はアナログ・周波数分割・数チャンネルから十数チャンネル、デジタル・時分割・数十チャンネルと進み、ここからは概念ががらりと変わってパケット、ATMとなり、単位もチャンネルからbpsになりました。私のようにアナログからデジタルに切り替わる頃に最後の通信科基本教育を終えてしまった世代には理解がかなり難しくなっています。更に、まもなくIPのMbps更にGbps時代となりますと後輩を信じ託すしかない状態です。野外を支える固定通信網の情報通信基盤は残念ながら交換機がまだIP化されていないものが多く、フルIP化はまだですが、各駐屯地内は一足早く整備されました。野外通信のIP化と相まって十年後までには陸上自衛隊の通信は固定から野外までIP化され、通信は音声、映像、データを別々に伝送すると言う概念から、すべてIP化

されたデータを伝送すると言う捉え方になります。多重無線機も交換機も無線機も暗号機も中身は皆コンピュータになってしまい、カバを剥ぐって機能を理解しながら回路図を追う楽しみは無くなってしまいました。そのような環境の変化の中、通信学校の教育は、限られた教育期間の中で何を教育するか取捨選択を毎年繰り返し、精選していただいております。歴代学校関係者の努力の賜だと思っています。

例えば、システムに関する教育です。固定系には既に陸自指揮システム及び補給管理システム等の業務支援システムが導入されていますが、漸く野外にも待望のシステムが師団等指揮システム、基幹連隊指揮統制システムを皮切りに入りました。本格的には、ネットワークの基盤となる新野外通信システムが導入される数年先を待たなくてはならないのですが、人材育成は既に始めております。

幹部及び陸曹の全課程教育にはシステムの教育時間が組み込まれておりますし、システム防護課程、システム開発課程は従来の電計処理課程の上位課程として、高度なシステム能力の付与を目指して教育開始しています。このように従来の教育に加え、次の時代にも耐えられる人材育成もしているために、年間の教育所要が増大し三年前から年度の差はありますが、約七〇課程(約二百五十人)ほど増えております。教官の数は増えておりませんが、教官の負担が増えているのは間違いないと思います。

調査研究に関しても、中期的、長期的な検討にも主体的に参加するために、学校内にプロジェクトを立ち上げ、学校職員全員が通信科の将来を担う研究員であるとの意気込みで、将来の通信科部隊の編制・装備・運用等及び通信学校の教育体制等について鋭意研究を進めております。若い職員にとっては、いざ自らが迎える時代に最高の状態でこの気持ちがあるでしょうが、その時代には退職している世代の職員にとっても、後輩から後ろ指をさされたい立派な財産を残そうとの気持ちです。

駐屯地の六十周年にあたり、通信学校の現状を中心にご紹介しましたが、信友会員の皆様には一般向けの見学ツアーにかかわらず、是非通信科の故郷を訪ねて頂き、先輩方の努力の後輩が受け継いでいっている姿を見て頂きたいと思っています。

久里浜駐屯地六十周年を記念して

久里浜駐屯地広報班長 井水 えみ

久里浜駐屯地は自衛隊の前身である「警察予備隊」が発足してから六十一年・干潟であった久里浜は関東大震災を機に、土地が隆起し、土台ができました。そこに海軍通信学校はじめ、海軍工作学校、海軍対潜学校とできて海軍の学校の町となっていました。終戦後、警察予備隊久里浜部隊が創設された時には地元の久里浜小学校の子供達が平作川沿いで拍手で出迎えてくれたそうです。

平成二十二年度、還暦を迎えた久里浜駐屯地では、様々なセレモニーを実施しました。まず、四月の観校会にあわせ、本館のライトアップが始まりました。海軍通信学校時代から七十年間以上駐屯地を見つめ続けている建物が一層輝いて見えました。五月十日、記念植樹を実施し、海軍通信学校の横に【コブシ】を植えました。花が咲くのは二年後です。

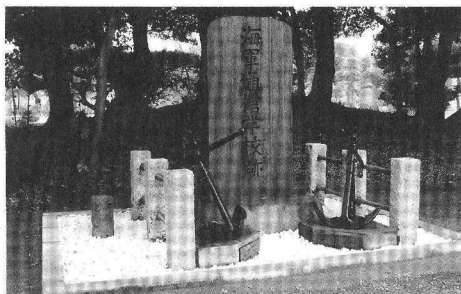
六月七日からは見学ツアーを開始し、本邦初公開の【貴賓室】(歴代学校長室)、【特別展示室】(六十年を年表とパネルで紹介)、【歴史館】(新旧通信器材を展示)を部内外の方にご覧いただけるようにしました。見学ツアーも残すところ、あと一ヶ月(平成二十三年二月二十八日終了)となりました。延べ一、七七〇名(平成二十二年十二月三日現在)の見学者が来られ、大盛況でした。

八月、九月には駐屯地内にある記念碑周辺の整備を実施しました。【海軍通信学校碑】、【第六連隊第三大隊駐屯記念碑】、【保安隊幹部学校・保安隊業務学校移駐記念碑】、【甲種予科練記念碑】の周辺は、白い玉砂利できれいに覆われています。

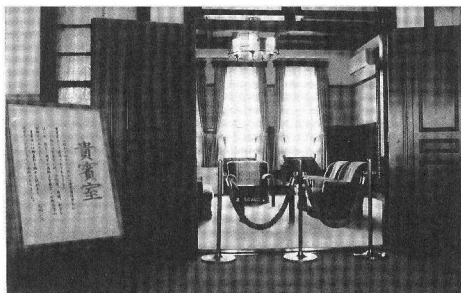
九月三十日には見学ツアーにまた一つ、【模型展示室】が加わり、お披露目されました。五月中旬からOBの石田氏に支援をいただきながら平成二十二年現在の模型を製作し、十年前に作成した昭和二十五年当時の模型と並べてご紹介しています。

十月三十日、久里浜駐屯地創立六十周年記念行事を実施し、例年とは違う内容で、陸上自衛隊の通信をご紹介したり、陸上自衛隊の主要装備品展示や防衛大学校儀仗隊によるドリル展示をご紹介しました。

二年後の平成二十四年は、【通信学校】が六十周年を迎えます。次は「通信」に焦点を当てて変遷をご紹介する計画を予定しています。器材名だけではなく、器材にまつわるエピソード等、器材等に関する情報について、信友会員の皆様には絶大なるご協力をお願いいたします。海軍通信学校から陸上自衛隊通信学校へと受け継がれた久里浜駐屯地・・・先輩方の偉業を継承すべく、更に努力していきます。



海軍通信学校の碑



貴賓室(歴代通信学校長室)



久里浜駐屯地ジオラマ模型

通信団の今

通信団長 陸将補 盛一 丈嗣



信友会の皆様には、常日頃から暖かいご指導ご鞭撻をいただき、感謝いたしております。通信団は、昨年二月に、創隊五十周年を迎え、記念式典を挙行し、

また、現在の通信団の一端を展示いたしました。信友会の皆様方にも多数ご参加をいただきました。この場を借りて再度御礼申し上げます。大変ありがとうございました。この場を借りて再度御礼申し上げます。また、昨年十月には、五年ぶりに陸上幕僚監部の総合視察を受審しました。このたび、ちょうど良い時期に、紙面をお借りする機会をいただきましたので、断片的ではありますが、総合視察時に整理した事項及び受審時において考え、要望した事項並びに隊員の行動等について記したいと思います。

総合視察に当たり、陸上幕僚監部の焦点は、システム・通信等及びサイバー攻撃対処等に関すること並びに隊務運営基盤及び陸幕施策に関するものでしたが、それぞれを分析するに当たり、まず、通信団の任務・特性とは何かを整理してみました。皆様もご存じのように編合部隊には任務が記されておりませんし、創隊から五十年、通信団が主任務として通信支援を実施する対象たる自衛隊が大きく変わり、通信団自体もその姿を変えて参りました。そこで通信団の任務を「中央意志決定機関等の指揮・連絡・統制及び情報等のための通信確保」とし、通信団はそれぞれ異なる機能を持つ六つの部隊から成るため、その特性を任務上、編成上及び装備上から整理し、今はやりの言葉をもじって、あらゆる通信ニーズに 대응される「クラウド」のような唯一の通信部隊と表現しました。陸上幕僚監部が、何らかの通信ニーズをインプットしてくだされば、その処理過程はわからなくとも必ず必要なアウトプットをする部隊であると報告いたしました。

受審準備に当たり、隊員一人一人に、在りのままの姿を見せることを基本にするが、通信部隊の業務の専門性及び複雑性から、説明の仕方及び見せ方を工夫すること

を要望し、日頃の隊務運営状況を整理し、短時間の受審期間において、いかに隊員一人一人の真摯な勤務状況をご理解いただけるかに知恵を絞りました。また、受審当日においては、一番大切なお客様を迎える気持ちで対応してほしいと要望しました。「五年に一度の受審」と身構えてしまうと、視察間及び補助官の方々が敵になってしまいます。自分にとって一番大切なお客様、例えば両親、配偶者の両親、お世話になった恩師等を迎えるんだと思えば、お客様をお迎えしたとき、少しでもお客様が心地よく過ごしていただけたらいいなと、少しでもお客様が心からの温かな目線で敬礼ができ、少しでも隊内を綺麗にしておこうと思ひ、いつも以上に綺麗な服装・容姿でお迎えすることが出来る。また、これを機会に、整理整頓については、単に整理整頓ができていたことが部隊の姿を計る尺度ではなく、「指揮官が徹底すると命じたこと」ができる部隊なのか、できない部隊なのか」が部隊の精強性を計る尺度なのだと説明し、「直角、平行」を徹底することをお願いしました。同時に、人は自分の能力を過小評価しがちであり、自ら限界を作ってしまうが、自分がもうだめだと思っても、まだ2割や3割の余力はある。自分の能力の120%を出し切って、徹底すべきことは徹底せよ、また、それが今後の自分や部隊の行動の基盤となる尺度となると指導しました。最後は、受審前日に、服装・容姿等の隊容検査を実施し、再度、後一日で出来ることを「徹底」して行うことを要望しました。

総合視察では、団の現況及び団が抱える問題点をご理解いただき、さらなる発展のため今後検討すべき方向性をご指示いただくとともに、陸上幕僚監部への職務的知見の「クラウド」業務として、統合通信の在り方等への提言を要望されました。所見の最後は、「通信団長以下、団本部及び団本部付隊、各隷下部隊並びに全隊員の任務遂行に向けた創意あふれる情熱と本総合視察に当たっての真摯な姿勢に対し、深甚なる敬意を表して所見とする」と締めくくられており、受審間通信団の隊員全員が一丸となり、「大事なお客様」に、理解容易な報告、展示及び心からの温かい接遇ができたものと思っております。最後になりましたが、今回の総合視察を、次の時代へのステップ台として、更なる発展に努めて参る所存ですので、信友会皆様の更なるご支援ご協力をお願い申し上げます。

「ハイサイ! 第十五通信隊です。」

第十五通信隊長 二等陸佐 西野 充伸



信友読者の皆様、初めまして、今回は紙面をお借りして、第十五通信隊の紹介をさせていただきます。皆様ご承知のとおり、平成二十二年三月二十八日に、

沖縄第一混成団を母体として、第十五旅団が新編されました。これをもって陸上自衛隊の九個師団、六個旅団体制が完成したわけですが、第十五通信隊も、第一混成団本部付隊通信小隊を母体として新編されました。これまで旅団の通信科部隊は、中隊として編制されてきましたが、この第十五旅団では、規模こそ中隊と変わらざる約一〇〇名の部隊であるものの、「隊」として編制されております。

さて、第十五旅団における新編初年度である今年度の隊務運営のモットーは、「根を養えば、樹は自ずから育つ」であり、反怖旅団長の卓越した統率の下、全隊員一丸となって、要項事項である「ABC(あたりまえのこととを、ばんやりせずに、ちゃんとやる)」の具現と、「チ



隊旗授与

ムグクル施策」の推進に努めているところです。隊としても、隊員一人一人が、名実ともに南西諸島防衛・警備の第一線部隊の一員として充実して勤務できるよう、あらゆる隊務の総合一体化により部隊活動の基礎である「団結・規律・士気」の確立を図っているところです。

通信隊は、沖縄県出身者が約四五%、九州出身者が約五〇%を占め、平均年齢約三二歳という、とても若い部隊です。これまでの団本部付隊通信小隊から、青地に二本線の隊旗を持つ旅団直轄の通信隊として新編され、隊員の士気も非常に高いと感じております。また、主要装備品は、現在、七九式の通信機材を保有しておりますが、今年度中にはDICS(改)が導入されることになっており、教育訓練と併せて新機材の導入準備を鋭意進めているところです。特に、教育訓練については、新編部隊として実力を養成する年度と位置づけ、基本・基礎を重視して練成してまいりました。沖縄という土地柄から本土に比較して訓練環境にはやや制約を受けますが、年度当初から、旅団計画及び自隊計画の各種教育訓練を通じて、段階的に実力を養成しております。今後は、これに加えて、これまで養成してきた幹部要員を中心に、導入される新機材を我々のものであるよう努めてまいります。初代通信隊長として、私が着任するに当たり隊員に要望したのは、「積極濺刺」です。文字通り、通信隊がいかなる状況においても、与えられた任務を積極濺刺と遂行できるよう、隊員一人一人が自己の立場でそれぞれ為すべきことを実行してもらいたいと要望しているものです。今のところ、全隊員が要項事項具現のため一生懸命努力していると感じております。私個人も、隊員一人一人が充実感を感じて、積極濺刺と勤務する環境を作るため、「隊長自らが、常に明るく、目標達成に向けて積極的に勤務する。」ことが重要であると考え、これを実践しております。「いかなる任務も完遂し得る精強な通信隊の育成」という公的目標のほかに、個人として、今年度は「那覇マラソン完走」を、来年度は「何か沖縄らしさの修得」を目標として、健全な単身赴任生活を送りたいと思っております。

最後になりましたが、第十五通信隊は、新編部隊であり、協力会やOB会といった組織はありませんが、常に挑戦の気概を持ち、献身と誠実の心を忘れず、旅団の指揮の命脈として真摯に実力を養成するとともに、南西諸島防衛・警備の第一線部隊としての歴史と伝統の創造に努めて参りますので、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

西通群協力会の紹介

協力会副会長 西村 博昭

全国の信友会会員の皆様方におかれましては益々ご健勝、ご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、今回は、西部方面隊の指揮の命脈である西部方面通信群の協力会について紹介をさせて頂きます。西通群協力会は、昭和五十七年に発足し今年で二十九年を迎えようとしています。昭和五十七年当時の自衛隊は、「愛される自衛隊」を標語とし、「隊員募集」に全力を傾注していた時代でありました。西通群に目を向けますと群は健康駐屯地の主力部隊として自隊の訓練・演習等とはもとより、部内外における各種支援、近隣校区を招いて実施していた駐屯地運動会等、部内外における各種運動競技会において優勝等の成果を収める活気あふれる部隊を形成してありました。このように素晴らしい隊員の方達の活躍状況を部内外に広報しようとした時にその当時、西通群はその手立てを持っておりませんでした。全自衛隊では、「朝雲」西部方面隊では「鎮西」という広報紙を既に発行し部内外に広く自衛隊をPRしていた上級部隊等になり、何とか西通群でも広報紙を作成しようという努力し、自隊において発行のはこびにこぎつけたものの、紙の質、ページ数、発行部数等いずれも改善が必要でありました。これらの諸問題を解決するためには、「経費」が必要であり、その獲得のために諸先輩からの紹介による部外企業に対し、広報紙にその企業広告を掲載するという事で「経費」獲得を試みましたが不調に終わりました。そこで発想を変えて協力会員になっていただきそのおれに広報紙にその企業の広告を掲載するという事で調整しましたところ賛同していただける企業がみつかり「経費」獲得に成功しました。このような経緯により協力会は発足致しました。

本協力会の目的は、「西通群に深い理解をもつ者をもって西通群の部隊活動に協力するとともに、会員相互の親睦を推進し、もって西通群の発展に寄与する。」であり発足から現在まで歴代協力会長等の努力により逐次会員数を増やし、もって西通群の発展の一助を担っているものと確信しております。協力会内の会員等の構成につきましては、会員数約五三〇名、部外会員約八〇名、OB会員約四五〇名、会長一名(部外者)、副会長四名(部外者一名、OB会員二名)、理事若干名(部外者とOB会員はほぼ同数)で運営しております。また、歴代群長は顧問に、歴代会長は相談役に就いていただいております。

歴代会長を紹介しておきますと初代、井上四郎様(昭五七・三(平二・三))、二代目、藤川俊夫様(平二・四(四・三))、三代目、川越忠信様(平四・四(八・三))、四代目、古荘龍弘様(平八・四(十八・三))、五代目、東矢憲一郎様(平十八・四)と現在までに五名の方々(全部外者)にお世話になっております。

協力会としての活動状況については、西通群広報紙「精通」の発行(年三回、一回に印刷部数一一〇〇部印刷し会員及び全国の通信科部隊等に配布)、西通群所属隊員の全国大会等への参加激励(全日本銃剣道大会、全自衛隊空手道大会、全自衛隊バレーボール大会、全日本実業団空手道大会等)、協力会会員及び現職隊員への弔慰、部隊計画行事への参加(見学)及び激励等(西部方面隊及び西通群創立記念大会、訓練検閲及び群演習激励、西通群が計画する各種競技会の優秀者に対するメダル等の贈呈)であり、本会の目的である西通群の発展に寄与しているものと考えております。



西方通信群協力会総会



協力会員も参加しての餅つき

西部方面隊は、今まさに国防の第一線であり、方面隊における西通群の役割は日々増大し、また重要度を増してきておりますが、協力会会員一同、心を一つにしてこれからも西通群の充実発展のため支援してまいりたいと考えております。

こんな部隊を知っていますか？

編集部

最近、陸上自衛隊は頻りに部隊の新・改編をしています。信友会員の皆様はご存知でしょうか。

通信科部隊では、平成二十二年三月に第十五旅団第十五通信隊が新編されました。詳しくは、第十五通信隊長に紹介記事をお願いしましたのでぜひお読みください。

また、平成二十三年三月には、第五通信中隊が第五通信隊として編成される予定になってます。旅団の通信中隊長は三等陸佐であり、旅団司令部の通信課長を兼務するため、隊長を師団通信大隊と同じ二等陸佐にして指揮幕僚機能を充実させる意義があるようです。今後各旅団通信中隊が通信隊に改編されると思います。

「方面混成団」をご存知でしょうか。以前は、教育団という名称でした。方面混成団は、教育団当時の教育大隊、陸曹教育隊に師団・旅団の普通科連隊(コア部隊)を編入して混成団となりました。

コア部隊とは、即応予備自衛官を主体に編成される部隊のことです。平時は常備自衛官が二割程度の部隊で、即応予備自衛官の教育等を実施します。方面混成団は、現在、東北及び中部方面隊に編成されています。平成二十三年には北及び東部方面隊にも新編される予定です。平成二十二年三月に、職種「情報」が誕生しました。通信科も一部の隊員が情報職種に転換しています。

情報部隊として、平成二十二年三月に、中部方面隊及び西部方面隊に方面情報処理隊を廃止して「方面情報隊」が新編されました。

中部方面情報隊は、隊本部(伊丹)、移動監視隊(今津)、無人偵察機隊(今津)から成る部隊です。

西部方面情報隊は、隊本部(健康)、通信情報隊(健康)、無人偵察機隊(飯塚)から成る部隊です。

新たに編成された「無人偵察機隊」の装備は、砲迫射撃観測用の「遠隔操縦観測システム(FOS)」を基に飛行時間延伸などで偵察能力を強化したもので、UAVをプログラム通りに自律飛行させて指定地域を偵察、発見した不審車両や船舶などを追尾し、撮影した映像をリアルタイムで伝送することができるものです。

また、人の近づけないNBCR(核・生物・化学・放射能)災害の被災地偵察や、噴火の恐れのある火山観測

などにも活用できる等、活躍が期待されています。

方面情報処理隊といえば、東部方面情報処理隊が平成二十二年に、また、東北方面情報処理隊が平成二十一年に新編されましたが、次の編成替えがあるのでしょうか。

その他、東北方面隊では、平成二十二年三月に、第二特科群が改編され、「東北方面特科群」が新編されました。その隷下に第四対艦ミサイル連隊が編入されています。

少し前ですが、西部方面通信群は、平成二十一年三月に、第一〇三指揮所通信大隊及び第三〇二中樞交換通信中隊が新装備導入に伴い新編されています。

また、信友会員の皆様の中には、少年工科大学出身の方がいらっしやうと思いますが、平成二十二年三月に、陸上自衛隊少年工科大学は、「陸上自衛隊高等工科大学」に改編されています。生徒の身分は自衛官から防衛大学の学生並びとなりました。

高等工科大学のホームページでは、「三年間を通じ普通科高校と同様の教育を行う」「一般教育」「自衛隊専門的な技術の教育を行う」「専門教育」「陸曹候補者として必要な防衛教育や各種訓練を行う」「防衛基礎学」を主たる教育として実施します。」とあることから、今までの少年工科大学とは同じだと思えます。

いろいろな部隊等の新・改編を紹介しましたが、新しい陸上自衛隊を目指し、現役の皆様は日々奮闘されています。

今後も新しい通信装備が導入されていくと部隊名称は変わっていくのでしょうか。信友会員の皆様も今後の陸上自衛隊の動向に注目していただきたいと思います。

叙勲 おめでとうございます



瑞宝小綬賞	塩山 治 氏	(元 防衛施設庁建設部通信課長)
瑞宝小綬賞	日裏 昌宏 氏	(元 通信団長)
瑞宝小綬賞	星野 毅 氏	(元 通信補給処補給部長)
瑞宝小綬賞	松田 正幹 氏	(元 通信学校副校長)
瑞宝小綬賞	山田 修 氏	(元 通信補給処副処長)



瑞宝小綬賞	川崎 浅夫 氏	(元 中央基地通信隊長)
瑞宝小綬賞	鈴木 善勝 氏	(元 九州補給処長)
瑞宝小綬賞	田中 常光 氏	(元 通信団副団長)
瑞宝小綬賞	山下 正光 氏	(元 防衛研究所所員)
瑞宝双光賞	後藤 幸治 氏	(元 北部方面通信群)

陸上自衛隊通信電子の現況

陸幕通信電子課

はじめに

平成二十二年度は、平成二十一年度から先送りとなつた防衛大綱・中期防衛力整備計画の検討等、将来の防衛力整備に関する検討が実施されているところです。また、C4ISR整備計画についても議論を重ねているところであり、より良い計画とするため情報通信室が主務となり関係部署が英知を絞っているところです。

通信・システムに関わる主要事象としては、一月に起きたハイチにおける大地震に際しての国際緊急援助隊及び八月に派遣されたバキスタンにおける大規模な洪水に際しての国際緊急援助隊との間に民生通信を主体としたシステム・通信組織を構成し見事に通信任務を完遂しました。

また、ハイチにおける大地震に際しての国際緊急援助隊に引き続きハイチ派遣国際救援隊に派遣された部隊との間の通信を引き続き確保しているところです。

一方、厳しい予算環境は常態化しており、防衛省としては、総合取得改革推進のための取組として、装備品のライフサイクルコスト管理の強化、インセンティブ契約制度の拡充、コスト抑制のための努力、公正性・透明性の向上のための取組等の総合取得改革を推進しているところです。

また、防衛生産・技術基盤維持の必要性について、企業のご協力を頂ながら検討を進めているところです。このような環境の中、将来の通信体制を見据えつつ、陸上自衛隊通信電子・システム分野の発展・充実のため、通信電子課一同、日々の業務に取り組んでおります。

二 主要通信電子器材等の整備

平成二十二年度は、方面隊電子交換システム(中部方面隊、西部方面隊)、師団通信システム(改)(第十五旅団、中央即応集団)、師団等指揮システム(第四師団)、衛星単一通信システム(第十五旅団)等が逐次部隊に納

入されます。

また、新規整備品として「火力戦闘指揮統制システム、衛星幹線通信システム(携帯局)及び人員探知(壁透過)レーダ」について今後取得する予定です。

本年度の主要な固定システム関連事業は、北部及び東部方面隊の方面隊指揮システム、東北、東部方面隊及び十条駐屯地の補給管理システムを換装します。

平成二十一年度第一次補正予算で確保した「駐屯地等情報基盤の整備」については、平成二十二年三月に整備を完了し、駐屯地の情報通信基盤を構築することができました。現在、各種システム等を収容中です。

「移動型情報通信基盤」、「高速・大容量のデータ通信」、「ソフトウェア無線技術による無線機の統合」を特徴とした「新野外出信システム」の実用試験が平成二十二年年度から行われます。更に、陸幕通信電子課長を長とする「新野外出信システムプロジェクトチーム」により運用・編制特長・教育訓練・補給整備等について引き続き検討しているところです。

三 体制変換

(一) 内局等の改編

平成二十一年五月の「防衛省設置法等の一部を改正する法律案」の成立を受け、平成二十一年度の組織改革として防衛大臣を補佐する体制を強化するため、防衛会議の法律上の新設を行うとともに、防衛参事官制度を廃止し、防衛大臣補佐官が新設されました。

(二) 陸自部隊の新編

平成二十一年度末に第一混成団が廃止され、第十五旅団が新編されました。

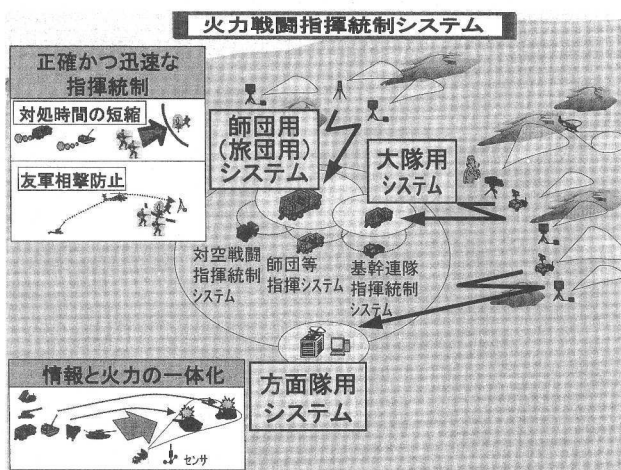
(三) 陸自通信部隊の新編

平成二十一年度末に第十五旅団の新編に伴い、二等陸

佐を指揮官とする第十五通信隊が新編されました。

四 おわりに

現在、「新大綱・中期防に係る検討」が実施されていますが、限られた予算の中、将来のシステム通信に大きく関わる「新野外出信システム」、「衛星幹線通信システム」、「野外型指揮統制システム」等の事業を推進し、あらゆる任務に対応するため通信電子・システム分野の充実発展に日々努力して参る所存ですので、信友会の皆様のなお一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



ご投稿のお願い

本機関紙では、会員の皆様のご近況・ご意見等の投稿を歓迎しております。毎年、九月ごろまでに事務局にご投稿をお願いします。

「信友」機関紙の紙面充実のために、ご協力をお願いいたします。機関紙担当からもお願いすることがありますが、よろしくお願いします。

信友会新入会員名簿 (H21.12.02~H22.12.01)

氏名	現住所	最終所属	退職年月日
大谷 雄二	千葉県八街市	通信団本	H19.03.21
伊東 寛	東京都新宿区	シス防隊	H19.03.31
松永 茂樹	千葉県野田市	空自補本	H20.03.31
梅田 正敏	埼玉県ふじみ野市	通信学校	H21.12.01
山村 俊朗	埼玉県狭山市	通信団本	H21.12.02
田中 達浩	東京都板橋区	通信学校	H21.12.07
赤木 教	埼玉県さいたま市	東通群本	H21.12.10
榎 喜隆	埼玉県さいたま市	補統本	H21.12.21
松尾 恵昭	東京都板橋区	中基シ通隊	H22.01.01
内田 匡昭	東京都板橋区	通信団本	H22.01.26
六輪 英二	宮城県宮城郡	東北通群本	H22.02.11
原 聖雅	兵庫県伊丹市	中通群本	H22.04.03
矢野 輝雄	岩手県盛岡市	東北通群本	H22.04.21
佐藤 洋悦	北海道札幌市	北通群本	H22.04.29
児玉忠三郎	神奈川県横須賀市	通信学校	H22.05.06
石井 智	神奈川県横須賀市	通信学校	H22.05.21
原田 優二	熊本県熊本市	西方情報隊	H22.06.21
加地 信夫	東京都練馬区	通信団本	H22.07.23
樹見 邦彦	千葉県千葉市	通信団本	H22.08.06
初瀬 進	埼玉県さいたま市	中基シ通隊	H22.09.23
原田 守	埼玉県坂戸市	東通群本	H22.10.14
竹田 重樹	千葉県八街市	通信団本	H22.10.23



合同歓送迎会 新入会員紹介

ゴルフ分科会から

一分科会の概要

信友会事業の一つとして関東地区でゴルフコンペを年に二回(春・秋)開催し親睦を深めております。

このコンペは、陸上自衛隊OBのコンペとしては最も古く、規模大かつ伝統のあるコンペであると言われております。場所は当分科会が設立された当初から赤羽ゴルフ倶楽部を利用しております。理由としては、交通の便、十組ものコンペを予約できる場所が少なかったこと及び河川敷としてはコースの状態が比較的良好だったためと云われております。

記録に残っているものを見ますと平成五年頃は十組四十名を超える愛好者が一同に集い技を競い合いプレーを楽しんでおられます。また、当時すでに各人のハンディキャップが管理されており親しき中にも厳正な競技が実施されておりました。

現在も場所は赤羽ゴルフ倶楽部を使用しストローク・ハンディキャップの伝統を引き継いで競技を実施しております。

二十二年度の活動状況

春のコンペは、四月二十二日(木)に計画しておりましたが今年度の異常気象により予期せぬ天候不順に被われ、前日までに相次ぐキャンセルの申し出がありました。が、決行の方向で当日ゴルフ場に集合して戴きました。当日の天候は期待に副わず四月にもかかわらず気温七度、しかも降雨のため時間が経つにつれ益々気温が下がるという最悪の見通しとなったため、参加の方々のご意



コンペ参加者



副会長から優勝杯の贈呈

見を伺い、止むを得ずコンペ中止という事態になりました。

ゴルフ場にお集まりの方々には大変ご迷惑をおかけいたしましたことを紙面をお借りしてあらためてお詫び申し上げます。

秋のコンペは、十月三十一日(木)に初参加者三名を含み六組二十一名で実施しました。天候は生憎の小雨の状況でしたが好プレーが続出し、楽しいひと時を過ごすことができました。優勝は渡邊光啓氏、準優勝は三石勉氏で、若手の参加もありましたがベテランが上位を制したコンペとなりました。

二十三年度のコンペは晴れになることを期待して筆を擱きます。

事務局だより

信友会事務局は二十二年度も年間五回の役員会を開催し、総会・合同歓送迎会業務を中心に会員の管理、機関紙作成ホームページ等の事務局業務を円滑に実施してまいりました。

一 信友会総会・合同歓送迎会の開催

昨年度の第四十六回信友会総会及び通信科・信友会合同歓送迎会は、平成二十二年二月二十日(土)に会員・現役合わせて約三百名の参加を得て盛会裡に終了しました。

本年度は、第四十七回総会・合同歓送迎会を平成二十三年二月二十六日(土)に、昨年と同じく「第一ホテル東京(新橋)」において開催する運びとなりました。本年度の試みとして総会の折に現役による講話を予定しております。

会員皆様の多数のご参加を心からお待ち申し上げます。

二 地区懇親会の開催

会員相互の親睦を目的とした地区懇親会を各方面通信群等のご支援を戴きながら行っております。

平成二十二年は三月に中部方面通信群創立記念行事に合わせて中部地区懇親会を実施し、会長以下役員を含め約三十名の方が出席し懇親を深めました。

本年度は西部方面通信群のご協力を戴き、二月に群の創立記念行事に合わせて西部地区懇親会を計画しております。

会員各位のご参加をお待ち致しております。

三 会員名簿補遺版の発行

今年度は、「補遺版」(変更・修正、新入会員分等)を作成・配布致しました。なお昨年度は二十二名の方が新会員として入会されました。

した。

四 信友会ホームページ

信友会ホームページを開設して約五年が経過致しました。徐々にではありますが信友会本部と会員各位及び会員の相互の連絡・意思疎通にお役に立ち始めたように思います。今後とも内容の適時の掲載・更新に努めてまいりたいと考えておりますので益々のご活用戴くとともに更に良いものに育てていただきますようご協力お願い致します。

五 通信部隊創隊五十周年記念行事のお祝い

平成二十二年は通信科の主要部隊である通信団、西部方面通信群、東部方面通信群、北部方面通信群がそれぞれ創隊五十周年を迎え記念行事を実施しました。

各記念行事には信友会から会長等多数の会員が参加するとともにお祝いの御樽等を贈呈して大きな節目となる記念行事を祝福致しました。

六 信友会役員の紹介

信友会会長は平成二十二年の総会で再任された福井孝三氏が四年目の職を執っております。昨年九月には菊池伯氏が副会長として就任いたしました。

長い間ご尽力いただきました監事森康雄氏・吉田義輝氏、総務幹事小島保仁氏、機関紙幹事上田萬満氏の四名が退任されました。現在の役員は次のとおりです。

(*)は新役員

〔会長〕 福井孝三

〔副会長〕 行徳浩志・菊池伯*

平成22年度信友会会計報告
(H22.1.1~H22.12.31)

収入		支出	
前年繰越金	4,990,145	慶弔費	127,000
終身会費	210,000	郵送等事務費	241,910
通信等事務費	1,496,000	印刷費	860,709
利息	365	原稿料	31,596
第46回総会入金	725	地方交付金	100,000
		総会会場代	100,000
		50周年祝い金	200,000
		振込等手数料	82,460
		次年度繰越	4,953,560
計	6,697,235	計	6,697,235

以上のとおり報告します。

信友会会計幹事

監査の結果、異常ありません。

信友会 監事

平成22年12月31日

村田 和美

野崎 正光

平成22年12月31日

佐藤 誠喜

中村 好男

ホームページ: <http://shinyukai.fc2web.com/>
e-Mail: shinyukai@livedoor.com

計報 謹んでご冥福をお祈り申し上げます
(H21.12.02~H22.12.01の承知分)

氏名	逝去年月日	住所
佐藤 亮男	H16.03.03	埼玉県入間市
荒木 貞夫	H19.03.23	兵庫県神戸市
猪野 豊生	H19.	東京都練馬区
徳川 泰生	H20.10.30	神奈川県相模原市
堀川 義之	H20.11.05	広島県広島市
角島 昌男	H21.01.03	神奈川県須賀市
河野 篤行	H21.01.10	大分県杵築市
孫有 地蔵	H21.02.02	東京都世田谷区
高橋 繁信	H21.03.10	大阪府豊中市
大沼 秀男	H21.04.09	宮城県仙台市
新井 康信	H21.05.20	埼玉県川越市
森山 康信	H21.05.27	東京都武蔵野市
八谷 不男	H21.05.27	東京都武蔵野市
高橋 澄夫	H21.05.27	埼玉県上水内郡
高橋 澄夫	H21.05.27	愛知県海部郡
高橋 澄夫	H21.05.27	埼玉県ふじみ野市
高橋 澄夫	H21.05.27	東京都江戸川区
高橋 澄夫	H21.05.27	神奈川県横浜
高橋 澄夫	H21.05.27	北海道旭川市
高橋 澄夫	H21.05.27	埼玉県ふじみ野市
高橋 澄夫	H21.05.27	北海道札幌市
高橋 澄夫	H21.05.27	宮城県仙台市
高橋 澄夫	H21.05.27	東京都品川区
高橋 澄夫	H21.05.27	東京都葛飾区
高橋 澄夫	H21.05.27	東京都八千代市
高橋 澄夫	H21.05.27	千葉県千葉市
高橋 澄夫	H21.05.27	千葉県千葉市

編集後記

信友三十四号は、会員の皆様及び事務局のご協力をいただき、無事発行することができました。本号は、信友会の最大の行事である「総会・合同歓送迎会(懇親会)」の記事を一面に掲載しました。

二面には、久里浜駐屯地創立六十周年記念特集を組み、通信学校長のご寄稿と広報班長の記念行事紹介記事をお願いしました。この機会に会員の故郷とも言える久里浜・通信学校を訪ねられたら如何ですか。

三面には、陸奥総合視察を受察され、すばらしい成果を挙げられた通信団長にご寄稿いただきました。また、新編された第十五通信隊長に部隊の紹介記事をお願いしました。

四面には、西部通信群協力会の西村博昭副会長に協力会の紹介記事をお願いしました。ご寄稿いただいた各氏には、本号にご多忙のところ、ご快諾いただきました感謝いたします。